

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八
弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両足で健全な国体を支える国家」を求めます。

《京都の繊維業界を守った小島達三氏と祇園鳥居本にて》

約250年前より八坂神社の大鳥居前に店を構える「鳥居本」。創業以来伝わる祇園料理とは、中国料理をルーツに持つ長崎の卓袱料理を京都風に洗練させたもの。八代目の田畑義規さんは現代の感覚を盛り込んだ懐石料理に力を入れる。「正味を食べていただきたい」という主人の言葉通り見た目に飾り気はないが素材に息づく季節感はしつかり届く。塩出しの後に蜜煮した甘く柔らかな南高梅の天ぷら「隠し梅」は代々伝わる名物だ。

私は故小島達三氏に昭和63年招待された。彼は丸十小泉から日本きものセンターを設立。丸十小泉の粉飾決算で京都の繊維業界が震撼。彼は身を投じ、京都の繊維業界を守るために代表者を受任、世紀的大事件の幕引きをされた。彼は「さきぞう」を和装業界に紹介。全国で年5千件のちりめん洋服催事を実施、二十数年のお取引で約10万件超の催事をされた。無量感謝！

南座新開場記念公演

7月6日14時開演
《日本音楽の源流 聲明 大原魚山流聲明と本山本願寺の聲明》

本会の南座聲明公演は①平成9年8月②平成12年7月、天納傳中先生亡き後③平成16年6月に公演、本年7月6日には第4回目を「天台宗京都魚山聲明研究会」と「浄土真宗西本願寺派」が共演。監修・水口一夫、アシストは天台聲明を聴く会の田村佐起三が勤めさせて戴きます。

仏教音楽である聲明は日本現代音楽の根本であるだけではない。世界に通じる素晴らしい音楽であり文化であることを、中学の恩師である天納傳中先生がパリを皮切りに「ドイツ、イタリアなど欧州各国から招聘された際の聲明公演の録音を聴きながら教えて戴きました。

聲明とグレゴリオ聖歌隊や北欧のヨイク(伝統音楽)との共演で聲明の伝統と文化が世界に通じその和音ハーモニーの奥深さを思い知らされ日本の誇れる伝統音楽であることを認識しました。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《さつさと不況を終わらせろ/P・クルーグマン著》
消費増税は必要なのか？②

米中貿易摩擦が熾烈になってきた。日本の経済にも大きな影響が出ている。各種の経済指標は悪化しており内需も弱い。経済評論家や政治家の一部からは消費増税後の景気悪化を懸念する声が行うとしてくる。政府はあくまでも今秋に消費増税を前に控え安倍首相の最終判断が注目される。ノーベル経済学賞受賞のクルーグマンは過去の来日時に首相へ直接進言、結果消費増税10%への引き上げは延期となった。彼の政策はアベノミクスと近いが、もつと規模を大きくすべきと主張。景気回復のために大胆な財政出動を行って公共工事等で需要を作り出し、デフレ脱却と経済成長を目指すべきと昔ながらのケインズ的手法を提言する。

土口哲光和尚の説法

《ニコニコの笑顔は慈悲》

苦悩は過去にも今にも、そして未来にも満ちあふれている。自然の風景では、苦虫を噛みつぶしたような冷たい冬景色に似て、この底まで凍り付く思いとよく重なる。こんなおりに、癒されるのが、ここをほぐされる喜びに会える人の出会いはある。「ニコニコの笑顔」が求められる。両腕を惨事で無くした大石順教尼は、喜劇王と呼ばれ落語界の巨匠・柳家金語楼(1901~1972)に、「落語家を目ざすにはまず、人がどっと笑う顔をつくれ」と、指導している。テレビ時代に入って金語楼師匠が登場すると視聴者は茶の間で笑いに転げ、こころがほぐされる喜びをいただけた。

「笑面垂慈悲」―笑面(笑顔)は慈悲(いつくしみ)を垂(た)れる―と言う五字を墨書している。

季節の家庭料理 田村 真紀

《七月 茄子と大葉の豚肉巻き》

代表的な夏野菜の茄子。皮の紫色、ナスニンはポリフェノールの一種で動脈硬化、高血圧の抑制や老化防止の効果が期待できるそうです。

〔作り方・十二個〕
茄子二本・豚ロース肉薄切り十二枚・大葉十二枚・小麦粉適宜・大根五、六センチ(大根おろしにする)★(しょうゆ、酒各大匙二半・みりん大匙二) 茄子はヘタを取り六等分のくし切りにし、さつと水にさらし水気を拭きとる。大葉は洗って軸を取る。豚肉を広げ大葉、なすを手前に乗せ、くるくる巻き、小麦粉を茶こしで全体に薄くまぶす。フライパンに油を薄くひき、中火で肉全体に焼き色がつくまで焼く。★の材料を加え全体に絡め器に盛り、大根おろしと煮汁の残りをかける。

つれづれの記

《過信は禁物》

アクセルとブレーキの踏み違いや前方不注意、高速道路上の逆走など、このところ主に高齢者による交通事故が多発し、免許証を返上するドライバーも急増中だ。

人間、個人差はあれど加齢とともに視力・聴力が衰え、注意力が薄れ、気づかぬ内に動作も緩慢になる。これは車の運転に限らず日常生活の様々な場面に見られることで、これがもし政治や経済を司る人たちの思考や言動に潜在しているとしたら大変危険なことだ。人間誰しも自らの身に忍び寄る退化や老化を意識したくない。ましてや応分の功成り名を遂げた人には自信も誇りもあるだろう。しかし自信と過信は紙一重。大切なのは老いゆく身を自覚し、常に自省の念に立ち、謙虚な良識をもって行動することだと思ふ。

山崎 辰巳